

「団長の独り言・第三十八回公演
「ぎ・クリンキーパー」

「前を向いてー負けなさいー」

劇団ふあんハウス第38回公演「ぎ・クリンキーパー」は、8月14日(土)・15日(日)に板橋区文化・国際交流財団さまの共催により、開催する予定でしたが、中止を決定いたしました。

「コロナ騒動が収まらない状態の中、公演に向けて物事を進めていいのかわるか?出演予定のメンバー達と、電話、ZOOM会議、メール等でやり取りをし、議論に議論を重ねた結果です。」

現段階において、「コロナ禍もやや落ち着きつつある兆しが出てきたって感はある、6月からはどこの稽古場も使えるようになるかもしれないのですが、じゃー8月になって、全てのお客様が以前のような環境で安心してお芝居を「観」いただけるか?どうかって話になると、そこは誰にも「分からない」事なのです。

「やりたい気持ち」だけで、「やるつもり」って進めていいものなのか?本当に悩みました。

仮に8月、「コロナ騒ぎがひと段落して、無事公演を行えたとしても、「入場の際は、必ずマスクの着用をお願いし

ます」「消毒は必ず行ってください」「客席の間隔は前後左右一列ずつ開けてお座り下さい」等、お客様にお願いをして、不安を抱えた状態で「観」ただく事になるやもしれず、しかも万が一、「集団感染」にでもなってしまう可能性も現時点においてははげまさん。

あと稽古期間の問題もあります。

劇団ふあんハウスが、稽古場として利用させていただいている様々な公共施設は、今も利用は出来ず、だからと言って民間の施設を借りるとなると、大幅に予算が膨れ上がってしまうのです。

それでも「やりたい!」気持ちだけで、6月からどこの施設をお借りして稽古をスタートしたとしましょう。

そうなると、毎週土日の夜の時間帯だけでは、稽古時間が足りない過ぎるので、ウィークデーの稽古や、昼夜稽古の回数も増やさねばいけないという状況になります。

ここが意外とネックでして、出演者の誰もが稽古の重要性は分かっているものの、いざ稽古日数を増やし、土日の稽古時間も長くして、稽古すべてに参加する事が絶対条件!という事になれば、毎回キチンと来られる人は決まってしまう、稽古時間や回数を増やしても、さほどの効果はないという状況になる可能性が非常に高いのです。

それでも、そう言う事も承知の上で、無理やり突き進めば、なんとか本番を迎える事は出来るかもしれません。

だって劇団ふあんハウスは、この22年間、どんな困難にぶつかっても必ず乗り越え、ちゃんと大成功を収めてきたのですから。

しかし…今回は劇団の事情で、困難にぶつかり、その困難を「熱意」と「やる気」で乗り越えるのは訳が違います。相手は「コロナ」ってやつなのです。

出演メンバー達と議論を繰り返して、時として激しいやり取りの中涙を流すメンバーもいる中、とても辛い時間が続きましたが、「様々な無理」を押ししてまで、「今」お芝居をすべきなのか?という事をよく考えて、「この度」「8月公演中止」という結論に至りました。

でも正直、やっぱり辛いですね…。22年間、どんな事があっても走り止めることなく、色々な事を言われながらも、様々な困難を乗り越えながらも、37回の公演全て成功させてきた身といたしましては、「走り」を止める「って事はとっても辛いのです。

理屈ではよく分かっておりますが、感情がなかなか理解してくれません。20代の平野恒雄ならば、間違いなく「やめぞあー」で突っ走っていましたね。私って元来そいつ奴なのです。

それでも「8月公演中止」を決断したのは、今、無理をして「やりたい」というわがままを貫いちゃいかん!って、今の平野恒雄は思ったのです。

きつと30年前の私がタイムスリップしてきたら、57歳の私(自分)の判断を強く非難するだろうなあ…まあでもね80代後半の私がタイムスリップしてきたら、「それでいいんじゃない?」って言って、理解してくれるだろうなあ…って思いつつ、さらに前を向きたいと思えます。

そして来年1月末、赤坂区民センターにて公演を行う事は決定しておりますので、パワーアップした「ぎ・クリンキーパー」を絶対に創り上げます!

という事ですので、夏に皆様とお会いする事は今年は出来ませんが、どうか、どうか劇団ふあんハウスの事を忘れないでくださいな。

これからも劇団ふあんハウスをよろしくお願いたします。

まけへんぞ〜劇団ふあんハウス!